

紙芝居「保科五無齋」「六川長三郎勝家」

「お話バスケット」の皆さん

実施日：令和4年5月30日（月）



「お話バスケット」の皆さんを講師にお招きし、創作紙芝居を上演していただいた。まず「石を集めた五無齋先生」では、本校の初代校長の保科百助先生の生い立ちを学んだ。五無齋先生は石の研究に力を注いでいたことや、「たくさん子どもたちに教育を」という考えのもと、貧しい子どもたちにも学ぶ場を提供していたということだった。また「堰をひらいた六川長三郎勝家」では、江戸時代に立科町の農業を支える用水を開いた六川長三郎勝家の偉業をお話いただいた。いずれも蓼科学を学ぶ上で欠かすことのできない内容で、興味を持ち紙芝居に集中する生徒たちの姿が見られた。

【生徒の授業日誌より】

・五無齋先生が言った「人の自由をしぼることは間違っている」という言葉が心に響きました。貧しい生徒のために塾を開いた先生はとても心が広い人なのだと思いました。五無齋先生の「頭は冷静に、心は温かく」というおもしろい言葉も心に残りました。

・自分のことよりも他の人、小さい子どもたちのために一生懸命生きた百助先生はかっこいいと思いました。誰もできないと思っていたことをやってのけて、みんなに感心される勝家さんはすごいと思いました。

・歌を作ったときに、「なし」が5つあるから名前を五無齋になるのがおもしろいと思いました。山にある湧水を村までつなげるのが大変だと思いました。とてもわかりやすい紙芝居でした。

・保科先生も六川長三郎さんも壮絶な人生だったし、大変だったと思うけど2人とも子ども思いで、村人思いで、素直でまっすぐで、1回やると決めたら絶対にやりきるころは「すごいな…」と思いました。勝家さんが最終的に守り神としてたたえられていたのはすごくびっくりしたし、本当にすごくて、みんなに尊敬されている人だったのだなと思いました。

・今回見て聞いた紙芝居は昔の2人の話だが、2人とも自分のことよりも他の人のことを考えて行動し、現代のわれわれに学ぶべきこと、知るべきことを教えてくれた。自分もこの2人のように自分のことだけを考えるのではなく、他の人にも利があることをしたいと改めて思った。